

いずみニュースレター

発行元：社会福祉法人いずみ 東京都東村山市富士見町3-4-16

TEL:042-394-1868 平成28年5月発行 第4号

多磨全生園に学ぶ

法人いずみ 理事・評議員

比留間 由真

東村山市内でこれほど広大な面積を有する事業所は他にはないだろう。

監房、収容門、見張所、火葬場等々……。今では過去の歴史となったが忘れてはならない史実であります。ここ多磨全生園はかつて国が行っていたハンセン病対策の療養所として明治42年に設立された施設であります。それにしても療養所としては違和感を持たせる建造物が多数設置されていることに驚かされます。

国はハンセン病に関する理解を過った為に、約一世紀に亘って隔離政策を続けて来ました。その過った判断からハンセン病患者とその回復者、そしてその家族等は地域から偏見・差別を受け、根こそぎ人権を奪われての生涯を送らざるを得なかったと言います。語り部の話を聞き入るごとに、再び全生園での過去の悲劇を思い出しました。これは、私が人権擁護委員になって久々に受けた全生園での研修であります。

入所者自らが植えた木々は、今は大木となって青葉の森の一部を形成している。その大木の元にひときわ目に止まったのは“人権の森宣言碑”であります。東村山市は全生園開園100周年記念にあたってこの記念碑を建立したものであります。これによると「……私たち東村山市民は、こころをひとつにし、ここに眠る人々を鎮魂し、この土地と緑と歴史のすべてを「人権の森」として守り、国民共有の財産として未来に受け継ぐことを宣言する」と記されています。

今の入所者は、高齢化に伴いピーク時の一割程度まで減少していると聞いています。また、新たなハンセン病も発症されないことから、施設の役割も徐々に減少しつつあるなか、施設の将来を考えたとき、ここを「人権の森」として国民共有の財産とすることは、誠に理に叶った宣言であると思います。

ハンセン病国立療養所は全国に13施設ありますが、どの施設も入所者は減少しつつあるなか、歴史的史実を風化させることなく、また同じ過ちを二度と繰り返さぬ意味でも、未来に向かってハンセン病療養所の施設活用と過去に行われた史実を「負の遺産」として残すべく、海外を含めた各療養所で歴史遺産化運動が行われています。

昨年10月に全生園運営委員会は、ハンセン病から学ぶ ～命と心、平和について学校教育の推進について～ と題して、東村山市議会に陳情書を提出されたと聞きました。この陳情書は、東村山市が小中高校でハンセン病問題を通して人権教育の取り組みを強めて「人権教育モデル都市」を目指してほしいとの願いが込められています。

今こそ東村山市もこれを受けて、いじめをしない、させない、見逃さない！を徹底した施策を考え、人権のまち東村山市としての特色を出して頂きたいと思っています。 1



重症心身障害児放課後等デイサービス



マカロン 開所式

平成28年4月1日から従来の「スマイル」の他に、重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービス（愛称 マカロン 定員5名）事業が開始する事になり、当日11時より子ども達や保護者、法人理事長の他に御来賓の方々をお迎えして開所式を開催いたしました。

式には、東村山市議会から大塚恵美子厚生委員長、村山淳子副厚生委員長にご出席いただきました。

開所式の締めは出席者全員で恒例、スマイル（作詞：新沢としひこ、作曲：中川ひろたか）を合唱♪、今後の船出を祝しました。



マカロンは、重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービス事業所です。

したがって「スマイル」には、従来からある放課後等デイサービス（今回を期に、

こんぺいとうと愛称をつけました。定員10名）へ重心放デイ（マカロン 5名定員）の機能が加わることとなります。

マカロンは看護師、機能訓練職員（PT）、嘱託医が必置とされています。



マカロン開設の目的

- ・学齢重心児の放課後等デイサービス。
- ・「スマイル」事業の永続性に向けた取り組み。
- ・ひまわり卒園後の受入れ
- ・地域の潜在的利用児（未利用者・医療的が必要な学童）のニーズに向けた対応。

～基本情報～

「スマイル」重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービス（愛称 マカロン）
定員 5名 登録者 11名（H28.4.1現在）
スタッフ 管理者・児童発達支援管理責任者・看護師・機能訓練職員・児童指導員3名・嘱託医
所在地 東村山市野口町2-9-25
連絡先 042-394-7231
サービス提供時間 下校時～17:30

10:00～16:00（学校夏休み等期間）

詳細お問い合わせください

文責「スマイル」管理者 梶沼 知徳

リハ室だより



【社会福祉法人 いずみ リハビリテーション】のご紹介を致します。

いずみには現在、法人内に3本部9事業所があり、それぞれの本部に理学療法士(PT)もしくは作業療法士(OT)が配置されました。

この度、4月から新たにPTが1名誕生し、PT3名、OT1名の4名体制となりました。

常勤のPTOTが4名勤務している同様の施設規模の法人は他にそうはないと自負しています。

個別の利用者の方へのリハビリテーションの提供は勿論の事、生活や活動を支える力となれる様に取り組んで参りますので宜しくお願い致します。

あゆみの家 成人部

成人部ではPT・OTの配置が整い、今までよりも多くの専門的な評価の下での訓練時間が増えました。しっかりとストレッチを行ったり、ゆったりと身体を伸ばしたりしています。

また、原点に立ち返り仰臥位のみならず、側臥位や腹臥位等の多様性のある姿勢の提供と、あぐら座位やクッションチェアを使って座位時間を延長して活動性を高めたり、変形・拘縮の進行予防や呼吸改善・褥瘡予防等の廃用症候群の予防を行っています。

あゆみの家 幼児部

あゆみの家幼児部には現在、体を動かしたい元気なお子さんや自分のペースで1つ1つ積み重ねるお子さんなどそれぞれの個性豊かなお子さんが22名登園しています。リハビリでは理学療法は運動機能の向上、作業療法ではコミュニケーションを含めたお子さん個人にあった生活を実現するために日々、リハビリを行っています。各職員と連携を取りながらお子さんが「できた」、「楽しい」と感じられるように1日1日を大切にしています。

ライフサポートつばさ

つばさのリハビリのモットーは生活リハです。日々の活動の中にリハビリがあり、30人全員に個別プログラムを作成。PT指導の基、職員によるプログラムから、自主トレーニングを意欲的に取り組んでいます。また、重要なことはリハビリで行ったことを日常生活にどう活かすかです。そのため、日常を過ごす中での動作・運動にも重きを置き、生活そのものの中でリハビリが行えるよう支援しています。

ひまわり

ひまわりのリハビリでは楽しいことを基本に、PTによる個別訓練、OTによる摂食・嚥下指導などに加え、日々行われる活動にもPTが一緒に入ります。リハビリの知識を用いた上で、活動が楽しめるよう取り組んでいます。通園されるお子さん(未就学児)のライフステージとしても、様々な運動、感覚、姿勢などの経験はとても重要です。その経験を、活動を通して楽しく過ごしてもらいたい、というのがひまわりのリハビリの特徴です。

「スマイル」

「スマイル」では平成28年度より重症心身障害児を主に対象とした放課後等デイサービス事業(マカロン)が開始となり、新たに理学療法士が配置されました。リハビリ専門職として「スマイル」の活動内でどのような関わり方ができるのかまだ手さぐりの状態ですが、より良い支援を目指して頑張っていきたいと考えています。



硝子戸の向こう

連載企画 第3回

理事長 福岡憲二

この事件をどう受け止めるか

1884年 今から132年前の夏、4人のイギリス人の船乗りが、南太平洋の沖合1800キロメートルを小さな救命ボートで漂流していた。船長、一等航海士、甲板員の3人と、17才の雑用係のリチャード・パーカー。孤児のパーカーにとっては、初めての長期航海であった。

食料はカブの缶詰め2個だけ。飲み水は全くない。4人は遭難後19日目で飢えに耐えられず、くじ引きで誰か死ぬべき者を決めようとした。中でもパーカーは他の者の忠告を無視し、海水を飲み体調を崩して死にかけているように見えた。くじ引きは甲板員に反対されたが、船長はパーカーに最後の時が来たと告げ、折り畳みナイフで刺殺した。

残った3人はおぞましい恵の分け前にあずかり、助けが来るまでの4日間、亡きパーカーのお陰で命をつないだ。

3人は救助されたが、イギリスに戻ると直ちに逮捕、起訴された。甲板員は検察側証人となり、船長、一等航海士は裁判にかけられ、両人は事実を臆することなく証言した。やむにやまれずそうした、と。(これからの「正義」の話をしよう マイケル・サンデル著 鬼沢忍訳 2010年早川書房 P44～P47の大意)

著者は最大幸福原理(ベンサムの最大多数の最大幸福は御存知の通り。)を挙げています。道德の至高の原理は幸福—即ち苦痛に対する快樂の割合を最大化することだと。

また一方で、最大幸福原理は人間の尊厳と個人の権利を十分に尊重していない事、また道德

的に重要な全ての事を快樂と苦痛という単一の尺度に還元するのは誤りだという反論も挙げています。

さて、我々は132年前の3人の船乗りとパーカーのこの事件をどう受け止めるべきでしょう。パーカーは死にかけていたのだからやむを得なかったか。或いは孤児で、今後とも社会的に有用でもなさそうだからやむを得なかったか。船長や一等航海士は生きて、社会に貢献する見込みのある人物だったから、優先的に生き延びるべきだったのか。そして殺人が許されたのか。いや、むしろパーカーは最年少であり、残りの人生は長く、望みは多いので、彼こそ生き残るべきで、最年長の者から死ぬべきではなかったか。

いやいや、人間たるものすべてに生きる権利と義務がある。だからこそ、それこそ渾身の力を振り絞って、それぞれが、最後の最後まで生き抜き、その尊厳を貫き通すべき、と胸を張れるか。

最後に、パーカーを現代の児童、病弱者、障害者等の社会的弱者に置き換えて考えるとどうでしょう。



【地域貢献事業】平成28年度春期講演会を開催しました！

日 時：平成28年4月23日（土） 於：あゆみの家幼児部・成人部フロアー

テーマ：ミニコンサート&懇談会 ～就学前の子育て体験談～

講 師：自閉症のヴァイオリン&フルートデュオグループ ノブタク

参加者：在園児，卒園児，保護者，職員，地域，外部の方 約50名

第一部 ミニコンサート

- ① イッツアスモールワールド（デュオ）
- ② うかれバイオリン（バイオリンソロ）
- ③ トルコ行進曲によるコンサートパラフレーズ（ピアノソロ）
- ④ アイアイ（みんなで歌いました）
- ⑤ シンコペイテッドクロック（子ども達がウッドブロックとフルーツシェーカーで参加）
- ⑥ さんぼ（子どもたちがタマゴシェーカーで参加）



第2部 懇談会 ～就学前の子育て体験談～

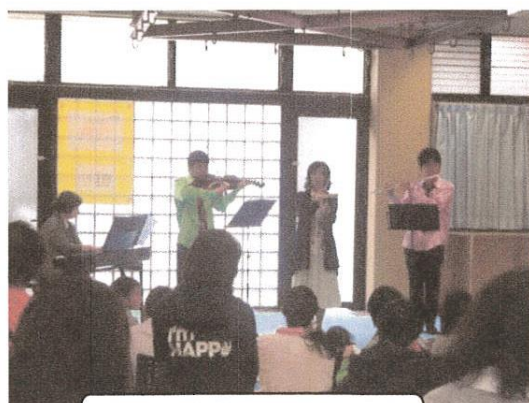
幼児部保護者から、お二人を育てたお母様にお聞きしたいことを事前にご連絡し、その内容を盛り込んだ内容で体験談をお話いただいた。

子育てをするうえで大切なことは、『よく観察すること』に集約され、何が得意なのか、興味関心を持つのかということに、親が気がつくことから始まると。そこを広げ、幼児期から続けた結果が今の姿であることを強調されていた。また、『特異を得意にかえて』というメッセージもあり、1人1人の特性をプラスに捉えて関わっていくことの大切さを学んだ。



感想

☆ピアノが上手だった。我が子もなんとかなるといいのですが。☆子供も楽しめる講演会でとても良かった。☆とても楽しいコンサートでした。心から楽しんで演奏されていることに感動。☆とても才能にあふれ、苦勞を超えて育ち、育て、育てていらっしゃる事がとてもよくわかった。☆大変な努力の話、良かったです。☆子供の得意なことに親が気づく『親の見抜く力』の大切さを感じました。親も一歩外に出て、色々な世界を見て、沢山のひととの出会いを大切にしたいと思います。私の子どもにも何かキラリとひかるものがあるのか？。親として見つけることができたらと思いました。



会場一体となつての演奏

担当：幼児部 松本

第7回講演会 ご報告

テーマ「身体障害児・者のライフステージに沿ったリハビリテーション」

日 時：平成28年2月13日（土） 於：東村山市北庁舎1階第2会議室

講 師：独立行政法人国立病院機構村山医療センターリハビリテーション科

植村 修 医師

参加者：利用者、保護者、職員、地域、外部の方々 60名

昨年の「身体障害者の加齢に伴う身体的変化への対応」についての講演がわかりやすい内容で、好評でもありましたので、再び植村先生に、お願いしました。今年は、当法人利用者の年齢が0歳から65歳と幅広いという事もあり、そのライフステージに沿ったリハビリテーションという、大きなテーマについてお話ししていただきました。リハビリテーションの本来の意義から始まり、脳性麻痺について、呼吸について、転倒（特に認知障害）について、リハビリについて等、パワーポイントを使用し、漫画や画像を交えながら楽しく話していただき、とても有意義な講演となりました。

参加者の感想の一部ご紹介

- 生活すべてがリハビリであり、目的を明確にし、少しでも長い時間リハビリを行っていくことの大切さを改めて感じました。
- 通所施設の職員として、楽しく、先を意識したリハビリを継続して行っていきたいと思いました。



担当：ひまわり 平野

～編集後記～

東日本大震災から5年が経過し、4月には九州熊本・大分にて大きな地震があり、甚大な被害が出ました。何時われわれの暮らしている東京でも大規模な震災が起こるかは分かりません。少しずつでも震災に備えて各家庭でも準備をしておけると良いですね。

被災地の皆様に、エールを送ると共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（事務長 吉村）